

あなたのお家を無料で耐震診断

ブロック塀等の解体に補助金も

町では、地震災害等による住宅被害を最小限にするために、無料で専門家による住宅の耐震診断を行っています。また、ブロック塀等の倒壊による事故の低減を目的とし、ブロック塀等の解体に対し補助等を行っています。

耐震診断

【対象住宅】

日野町内に存する木造住宅で以下の全ての要件にあてはまるもの

- 昭和56年5月31日以前に着工され、完成しているもの

- 延床面積の半分以上の部分が住宅として使われているもの

- 階数が2階以下でかつ延床面積が300㎡(約90坪)以下のもの

- 木造軸組工法で、枠組壁工法(ツーバイフォー)、丸太組工法でないもの

- 大臣等の特別な認定を得た工法による住宅でないもの

ブロック塀等

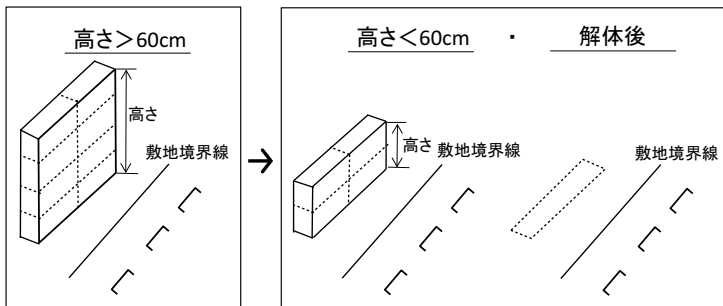
【補助対象工事】

ブロック塀等の高さを60cm未満にする解体工事

【補助金額】

ブロック塀等の壁面面積に3,000円/㎡を乗じた額または補助対象経費に23%を乗じた額のいずれか低い額(上限10万円)

その他補助制度等もありますので詳しくは、建設計画課までお問い合わせください。



◆問い合わせ先
建設計画課 都市計画担当 ☎0748-521-6567

感雑向綿

— 2020年4月 —
日野町長 藤澤直広

新型コロナウイルスが世界中で広がっています。3月20日現在、滋賀県でも4人、そのうち東近江市で2人の感染が確認されています。感染経路が不明であり、隣町として一層気を引き締めなければと思っています。

ところで、2月27日、首相が3月2日から24日まで全国一斉の学校休校を発表し、大きな影響を及ぼしました。翌日、滋賀県教育委員会から休校の要請がありました。対策会議を開催し、日野町においても3月2日からの休校を決定しました。併せて、やむをえず見守りなどができない家庭があることから、児童保育所、障がい児童保育所の朝からの開設が必要となりました。児童では、指導員の配置など大変難しいにもかかわらず、直ちに開設の判断をいただいたことにはありがたいことでした。併せて、児童に入所していない児童に対して、臨時預かりをすべての小学校で実施するとともに高校受験を前にした中学三年生を対象に質問教室を設置しました。

家庭での自宅待機にも協力いただきました。こうした対応によって、なんとか春休みを迎えることができました。

また、政府がイベントの自粛を要請し、県のイベント開催に対する考え方を踏まえ、「100人以上の不特定多数が集まるイベント等の延期」など町の考え方を定め対応することとしました。そのため、日野町町村合併65周年記念式典を夏以降に延期することとしました。3月19日には政府の今後の方針が発表され、学校の開校やイベント自粛の見直しなど社会生活、経済活動を行いつつ対応する方針となりました。町においてもしっかりと対応してまいります。

現在、日野記念病院、医師会と連携し咳や熱のある方を対象とした「発熱外来」の設置も検討いただいています。なかなか、収束の目途が見えないなかで関係団体と連携・協力し感染症対策を講じます。

暖冬の影響か、桜の開花が早くなりました。入学、入社、人事異動など希望に胸をふくらませ心新たにがんばろうとする季節。難局を乗り切るために力を合わたいと思います。

温故知新

日野歴史探訪

私たちの住む日野町には、52の大字があり、それぞれの地域が豊かな自然と歴史文化で彩られています。

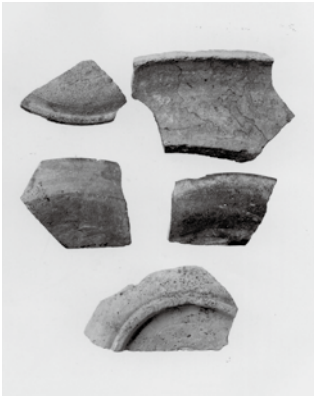
温故知新では、町内各大字の歴史と代表的な文化財をシリーズで紹介していきます。

大字北脇

大字北脇は、西桜谷地区の北東部、佐久良川の北岸にあたり、東は奥之池、西は蓮花寺、南は中在寺と安部居と接しており、北は瓜生津峠を経て東近江市に至る場所に位置しています。

古代、窯業の一大生産地

朝のドラマであらためて焼き物の里として信楽が脚光を浴びていますが、北脇も古代に窯業が盛んな地であったことをご存知でしょうか。実



北脇西窯跡から出土した須恵器

北脇に造られた5つの窯跡

は、現在の東近江市の南部から日野町を経て甲賀市水口町に至る丘陵地帯は、5世紀末から11世紀前半にかけて、窯業の一大生産地でした。そこで焼かれていたのは、ロクロを使って整形し、窖窯を使って高温で焼成した須恵器や瓦でした。

東近江市と日野町の間に延びる布引丘陵で須恵器の生産が活発になったのは7世紀の後半以降で、丘陵西端から東に向けて複数の窯が順次造られました。これは、燃料となる薪や、材料となる土がなくなると、谷の奥へと移動して新たな窯を設けるといったことを繰り返した為と考えられています。

西桜谷においても、8世紀前半の壺焼谷遺跡(蓮花寺)に始まり、北脇でも同じ8世紀前半から後半に造られた北脇西窯跡、8から9世紀には瀬戸山窯跡、北脇窯跡と東へ順次

移動していったことがわかっていきます。

また、詳しいことはわかっていませんが、雁谷窯跡では、昭和25年から雁谷溜の堰堤を造る際に、多くの須恵器が出土したと言われており、奥池窯跡からも過去に須恵器が出土したとされています。このように、古代の北脇は多くの工人が行き交う窯業の盛んな地でありました。

古代や中世、北脇に生きた人々の想いを伝える文化財

須恵器の窯が生産を止めて2000年ほどが経った平安時代の終わり



法光寺木造薬師如来立像

頃、法光寺の秘仏となっていた木造薬師如来立像が造られました。約1メートルの高さで、動きの少ない繊細な作例は、この時期の見本のような仏像で、国の重要文化財となっています。

また、法光寺の境内には、塔身に「嘉暦二年三月十八日」と陰刻された日野町の指定文化財である高さ約1.3メートルの宝篋印塔が建っています。年号から1327年のもので、蔵王の花崗岩製であるこの塔には、基礎の各面に異なる意匠が刻まれています。正面には孔雀、背面には開花した蓮、側面は三茎蓮ですが、一方は半開きでもう一方は蕾と変化を持たせており、大変豪華な装飾が施されています。

この塔には、誰がどのような目的で建てたのかわかるような文言が刻まれていない為、詳しいことはわかりませんが、こうした塔は、個人が建てることもあれば、村や一定の集団が共同で建てることもありました。いずれにせよ、当時の人々がこころをこめて建てたことを示す証とも言えます。



法光寺宝篋印塔